

45K



『個人課題研究 (こじけん)』 って、なに？

個人課題研究とは

- 生徒一人ひとりが、研究テーマを独自に設定する
- 課題指導者のもとで、長い時間をかけて自らが主体となって取り組む
- “調べ学習”ではなく、“研究”を行う

研究の目的

- 「自分は何が好きか」と向き合う
- 「自分はどう生きたいか」を考える
- 「問を発見し、深める」（≒研究する・探求する）行為を血肉化する

研究を通して習得してほしい力

- 研究テーマを自主的に設定することができる力
- 見通しをもって研究の計画を立てる力
- 研究過程において、常に活動を振り返り、計画を見直していく力
- 研究目的にあった研究方法を選択し実行する力
- 研究中に高いモチベーションを持ち続け、根気よく研究活動を続けていく力
- 論文を論理的に構成し、要綱に示された形式で書く力
- 研究成果をわかりやすく人々に伝える力
- 課題指導者や外部専門家との良好なコミュニケーションから成果を生み出す力



テーマ探しを始めた45K



自分の好きなものは何だろう？

～研究の流れ～

テーマ決定から論文発表まで、子供たちはどのような道のりを歩むのか、卒業生の方にアンケートにご協力いただきました。当時のエピソードなども織り交ぜています。

4年生2月～3月 テーマ決定・研究スタート

- ◆ とにかく資料集め！
- ◆ 論文を読んだり、興味のあることを掘り下げていった。
- ◆ 同じ学部に進んだ先輩の卒業論文を読ませてもらった。
- ◆ 実際に訪問して話を伺った。
- ◆ テーマに合う書籍を読み、要約を書いた。
- ◆ わからない言葉や興味を持ったことについて調べ、まとめた。
- ◆ マインドマップを作成。研究方法やどのような結果に導くかを考えた。
- ◆ 似たような論文を参考に、指導の先生からアドバイスをもらいながら実験内容を決め、夏休みの予定を具体的に立てた。
- ◆ 実験の手順、やり方を習い、練習を繰り返した。
- ◆ 週1回のゼミに参加し、参考文献を読み漁り、先行研究を探した。
- ◆ 基礎知識や論文の書き方を極めた。
- ◆ 被験者を決めた。



5年生～夏休み 研究中期・中間発表

- ◆ 教授にアポを取り、疑問点に答えてもらった。
- ◆ 研究対象の方にインタビューをした。
- ◆ 特定の競技について検証すべく、その部活動のある他の高校で合同練習をさせてもらいながらトレーニングをしていた。
- ◆ いろいろな側面から判断することが必要だったので、友人に協力してもらっていた。
- ◆ 中間発表のポスター作成の時は、序論をもとに、これまでに調べて分かったことや反省点を述べた。
- ◆ 実際に現地でアンケート調査を行った。
- ◆ 定期的に学校へ行って実験の記録を取ったり、次の段階の準備や生物の管理作業を行った。
- ◆ 実験を3つ行っただけで、データが取れ次第グラフにしたり、読み取れたことを簡単に記録した。
- ◆ なかなか思うように結果が出なかった。
- ◆ 途中で失敗して実験が重なったりもしたが、夏休みでまとまった時間があったのでよかった。
- ◆ 夏に行ったゼミ合宿はとても思い出に残っている。

5年生9月～1月 研究後期・学内発表

- ◆ 本論文の下書きを作成した。
- ◆ 本論文は、何度も添削を繰り返し、論文らしい文章になるよう直していった。
- ◆ 指導の先生と、ひたすらコミュニケーションをとりながら発表準備をした。
- ◆ 資料やインタビューのまとめを行い、できるだけ客観的な視点から結論を導いた。
- ◆ 設計したものを模型に表した。
- ◆ パワーポイントは特に力を入れた。決まった時間内に必要な情報を全て入れ、且つ分かりやすいものにした。
- ◆ 発表の際には、聞いている人にいかに納得してもらえるかを意識した。
- ◆ 動画や写真、パワーポイント用に新たに図を作り、簡潔にまとめるようにした。
- ◆ 放課後、友人と共に教室のプロジェクターを借りて発表練習をした。おかげで程よく緊張感を持って臨むことができ、フィードバックももらえた。お互いに意見を交換し合うことで、より良いプレゼンを目指すことができた。
- ◆ 「人の感じ方」がテーマであったため、結果も個々によって異なり、相関関係を見つけることが難しく、研究を通して自信をもって人に勧めることはできなかったが、自分の知りたかったことを知ることが出来てとても良かった。
- ◆ 英語で人に説明することが難しく、途中でくじけそうだった。
- ◆ 違うテーマの人に伝わるように意識していると、時間が限られているので難しかった。

～IB生の「こじけん」は、どんなもの？～

国際バカロレア（IB）ディプロマプログラム（DP）の構成要素として、必須の課題論文（EE:extended essay）があるため、IBコースでは茗溪独自の「こじけん」としての取り組みはありません。

しかし

課題論文（EE）に加えて理科・社会・数学等でも論文を書くため、合計で**4～6本**（各自の選択科目により異なる）の論文を執筆することとなり、MG生と同様に、楽しいながらも、相当ハードなものとなります。

また、外部評価課題の1つなので、IBDP取得要件として重要なものです。

IBDPが課題論文（EE）を課すねらい

- ◆ 知的な主体性と厳密さをもち、独立して研究に取り組む
- ◆ リサーチスキル、思考スキル、自己管理スキル、コミュニケーションスキルを養う
- ◆ 研究と執筆のプロセスを通じて、何を学んだかを振り返る

《課題論文（EE）プロセス》

- ① DPの認定科目を選択する
- ② トピックを選択する
- ③ 研究を始める前に、文献をある程度下読みする
- ④ 的を絞った研究課題を設定する
- ⑤ 研究と執筆プロセスを計画する
- ⑥ 論文の構成（見出し）を決める
（研究が進むにつれ、変わる可能性があります）
- ⑦ 研究を行う



～過去のトピックを一部紹介～

MG - 個人課題研究

- ◆ 睡眠の質を上げるためには
- ◆ 飛板飛び込みにおける技術向上
- ◆ 刑法39条一刑法39条の存在意義を考察する
- ◆ 子ども向け図書館の設計
- ◆ クロムミョウバンの結晶の析出について
イオン数の割合による形の比較
- ◆ 「SNSトラブル」の本質に迫る
- ◆ 千葉県柏市における直売所の役割について
- ◆ 納豆菌は寿命を延ばすことが可能か
- ◆ AIレンズが物体と環境から受ける影響
- ◆ 日本経済の発展とその方法—失われた30年から考える
- ◆ 夜間中学校の存在
- ◆ 音楽が運動に与える影響

IB - 課題論文 (EE)

Group 1: 言語と文学より

- ◆ 『枕草子』における藤原齊信が「長徳の変」関連章段に与えた効果
- ◆ 日本の企業広告における女性の描写とその社会的背景

Group 2: 言語の習得より

- ◆ Evaluating the Significant Speech-making Elements from Steve Job's Speech
- ◆ Language in Music

Group 3: 個人と社会より

- ◆ 第二次世界大戦中の東南アジアにおけるインドの独立運動の実態
- ◆ 世界恐慌はアメリカの産業にどの程度の悪影響を及ぼしたのか

Group 4: 理科より

- ◆ 球技スポーツにおける光の三原色と色立体視の影響
- ◆ Growth of water plants and their potential for use as biofuels

編 集 後 記

45Kの広報誌記事では5年生最大チャレンジである個人課題研究を取り上げました。1年後にどのような発表がされるのが楽しみです。

末尾になりましたが、今回ご協力いただきました皆様には心より感謝申し上げます。